

11月8日(月)

木に登った男

聖書朗読 ルカ 19:1~10

ザアカイは、急いで降りてきて、そして大喜びでイエスを迎えた。

ルカ 19:6

子供の頃、「背が低かったザアカイ」というタイトルの子供賛美歌を歌った経験のある人は大勢いると思います。現在でも、アメリカの教会学校ではこの歌がよく歌われています。

確かに、ザアカイは背が低い男性でした。ルカの記述では、背が低かったために群衆にさえぎられて、ザアカイはイエス様を見ることが出来ずにいたとあります。ザアカイは、取税人のかしらであり、お金持ちでしたので、社会的地位は高かった人だと言えましょう。しかし、ザアカイはイエス様の姿を一目見たいと熱望していたので、(社会的地位がありながらも)木に登るという大胆な行動に出て、イエス様が来られるのを待ったのです。つまりザアカイは、社会的地位よりもイエス様を一目見ることを優先させたのです！

イエス様は、ザアカイに目を留めて下さり、降りてくるように言われました。さらには、ザアカイの家に泊まると言われました。直ちに木から降りたザアカイは、イエス様との出会いによって心の内側から変えられました。彼は、財産の半分を貧しい人に施し、だまし取ったものがあれば4倍にして返すことを誓いました。これは大変な額になると思いますが、ザアカイはそれ程までに変えられたのです。

ザアカイは背が低かったことで知られており、背が低かったために出来なかったことも(彼の人生の中には)あったことでしょう。ですが、ザアカイの心は、神様によって大いに変えられました。つまり背が低かったために、イエス様を見ることは容易ではありませんでしたが、ザアカイの「イエス様を求める強い思い」は、イエス間にしっかり届いたのです。イエス様は、ザアカイの「イエス様を求める強い思い」をしっかり受け止めて下さったのです。

讃美歌 321

祈り 神様、ザアカイのように神様を求めることが出来ますようお助け下さい。
御心と御言葉に従えるようお導き下さい。

イエス様の御名を通してお祈り致します。アーメン。

シャロン・フォスター
テネシー州マクウェン

今日のカ

2021年11月8日~11月14日

翻訳 伊藤若菜

編集 相川忠義

この冊子の聖句は、新改訳聖書第三版を使用しています。

御茶の水キリストの教会

11月11日 (木)

神様が与えて下さる希望

聖書朗読 ルカ 24：13～24

望みを抱いて喜び、患難に耐え、絶えず祈りに励みなさい。 ローマ 12：12

先日、車を運転をしていましたらラジオから古い曲が流れてきました。その歌詞は「私から世界を遠ざけてくれ！ 私の重荷を取り除いてくれ！」と言った内容でした。これは上手く行かなかった恋愛についての歌で、全てを失ってしまったかのような悲壮感についての歌でした。私たちは人生において、「自分が思い描く夢のようなこと」が本当に起こるのではないかと高い期待感を持つことがあります。しかし、物事が期待したようには進まず、最終的には全く異なる結果に終わることもあります。そのような場合、私たちは非常に落胆し、すべてが終わったかのように感じてしまうかもしれません。しかし神様は、いかなる状況においても、私たちに希望を与えることがお出来になります。

ある日曜日、二人の旅人がエルサレムからエマオへ向かっていました。彼らは、救い主だと思われていたお方が十字架につけられて葬られてしまい、非常に落胆していました。沢山の奇蹟をなされ人々をお教えになったイエス様こそ救い主に違いない、と彼らは期待していたのです。二人が歩いていると、一人の男性が加わり、一緒に歩き始めました。彼らは、それが死から復活されたばかりのイエス様だとは気付かませんでした。イエス様は旧約聖書に記されている神の救いのご計画について語られました。彼らは主が語られることを聞きながら歩きましたが、隣を一緒に歩いて下さり語って下さっている方がイエス様だとは気付かませんでした。

時に、私たちは人生において非常に落胆することもあるでしょう。しかし神様は、いかなる時にも私たちに希望があることを約束して下さっています。そして神様は、私たちから心の重荷を降ろして下さるのです。そのような神様が共にいて下さることを知り、神様にお従いしていく時、私たちは自分たちが置かれた状況を違った視点で見ることが出来るのです。神様が共にいて下さるから、困難に状況においても、希望があるのです。

讃美歌 520

祈り 天のお父様、あなたが与えて下さった全てのことに感謝します。どんな時
もあなたが共に居て下さり、希望があることを思い起こさせて下さい。
イエス様の御名を通してお祈り致します。アーメン。

ジェイン・ポー・マッシー
テキサス州ヒューストン

11月12日 (金)

暗闇から光へ

聖書朗読 ヨハネ 1：1～9

神は光であって、神のうちには暗いところが少しもない。これが、私たちがキリストから聞いて、あなたがたに伝える知らせです。 Iヨハネ 1：5

そこは今まで行った場所の中で最も暗い場所でした。その場所とは、子供の頃家族旅行で行ったニューメキシコ州にあるカールズバッド洞窟群国立公園でした。ガイドが洞窟の奥深くまで案内してくれて、ライトを数秒消しました。そして本当の暗闇を体験することが出来ました。（日常生活でも）ベッド脇の時計のライトや、窓から入る月の光なしでは、目の前にかざした手の輪郭すら見ることはできません。ですから、洞窟での真っ暗闇は、まさに何も見えない暗闇に圧倒される感覚となりました。

光は、この世で必要不可欠です。神様が世界を造られた際、最初にもたらされたのは光でした。光があることにより、私たちは周囲の状況を確認することが出来、どちらに進むべきか知ることが出来ます。また、より良い道を選んでいく上でも、光は大切と言えます。

霊的な意味でも、光は私たちにとって必要不可欠です。本日の聖書朗読箇所に記載してある通り、人にとっての真の光であるイエス様が世界にいらっしゃいました。イエス様の光は、私たちを照らし出し、私たちの弱さや課題などを照らし出します。さらに、私たちが神様と共に歩むことが出来るよう、「主の道」を照らし出して下さいます。逆に、イエス様の光が無ければ、私たちは完全な暗闇の中を生きることになります。

イエス様の光を十分に受けて、神様と共に歩んでまいりましょう。

讃美歌 533

祈り 神様、イエス様を通してこの世に光を与えて下さったことに感謝します。
イエス様の光で、私たちを正しい方向へとお導き下さい。
イエス様の御名を通してお祈り致します。アーメン。

ジャン・ノックス
テキサス州グランベリー

11月13日 (土)

水の大切さ

聖書朗読 ヨハネ 4：7～26

わたしの弟子だというので、この小さい者たちのひとりに、水一杯でも飲ませるなら、まことに、あなたがたに告げます。その人は決して報いにも漏れることはありません。
マタイ 10：42

アリゾナ州の砂漠地帯に位置するある町に何年か住んだことがあります。その経験のおかげで、私は水の大切さを深く心に刻むようになりました。砂漠地帯は、とても乾燥していてほとんど雨が降りません。しかし水は、日常生活には欠かせません。

マタイ 25 章では、羊と山羊を分けるというたとえを用いながら、「さばきの日」について語られています。どのように羊と山羊が分けられるのでしょうか。マタイ 25 章では、その基準の一つとして「乾いている人の喉を潤す」ことが示されています。ですから、「私たちが水をどう用いるか」が、大きな意味を持つ場合もあるのです。

ヨハネ 4 章では、井戸端でのイエス様とサマリヤ人の女性との会話が記録されています。そして、この会話では、物質的な水と霊的な水が比較されています。イエス様が与えて下さる霊的な水は、私たちが永遠のいのちへと導きます。イエス様が与えて下さる水は、私たちの内で泉となり、永遠のいのちへの水が湧き出ます。サマリヤ人の女性は、その水を求め、イエス様から頂きました。私たちも、この「永遠のいのちへの水」を頂くことが出来るのです。

イエス様こそが、生けるいのちへの水です。イエス様を信じ、イエス様と共に歩むことによって、私たちの霊的な渇きは満たされます。私たちが、イエス様の語られた教えやイエス様の生き方に学ぶ時、そして、聖霊なる神様が私たちに満たして下さる時、私たちは頂いた「霊的な水」を周りの人々とも分かち合うことが出来るようになるのです。

讚美歌 鹿のように

祈り 天のお父様、あなたへ近づけるようお導き下さい。いのちへの水という恵みをしっかり頂くことが出来るよう、お助け下さい。

イエス様の御名を通してお祈り致します。アーメン。

スキップ・イエーツ
アイダホ州アモン

11月14日(日)

アンデレに学ぶ

聖書朗読 ヨハネ 6：1～13

弟子のひとりシモン・ペテロの兄弟アンデレがイエスに言った。「ここに少年が大麥のパンを五つと小さい魚を二匹持っています。しかし、こんなに大ぜいの人々では、それが何になりましょうか。
ヨハネ 6：8～9

イエス様の弟子の一人であったアンデレは、その兄弟ペテロの陰に隠れた存在として考えられがちです。ペテロは、積極的に発言するタイプの人で、彼の言動が目立ちがちだからです。そのような訳で見過ごされがちですが、アンデレは「どんな小さな可能性にも目を留める大切さ」を、私たちに教えていると思います。イエス様について来た何千という群衆は空腹で、食べ物を必要としていました。この状況を受けて、ピリポは「めいめいが少しずつ取るにしても、二百デナリのパンでは足りません」(7節)と言いました。それに対してアンデレは、あたりを見渡し、お弁当を持っている少年に目を留めました。

アンデレは、「私たち一人一人に今出来ることは何か」をまず考えて、その上で、「(私たちに出来る範囲を超えたことに関しては) 神様におゆだねしていく」という姿勢を持っていたのかもしれませんが。イエス様は、人々の必要(本日の個所では、肉の糧)を理解なさっていました。だからこそ、イエス様は奇蹟を行い、人々の空腹を満たされたのです。そしてその奇蹟を通して、まことの神の力を人々(特に弟子たち)に示されたのです。

私たち人間には、限られた力しかありません。しかしアンデレがしたように、私たちも「今、自分たちに与えられているものは何か」を心の目でしっかりと見て、それを神様に(ゆだねる信仰をもって)差し出していきたいものです。神様は、限りない力をお持ちです。そしてその神様に、私たちがゆだねていくことが出来るのです。祈りを通して、私たちの必要が満たされるよう、神様に願うことが出来ます。そして、神様の導きにゆだねて参りましょう。神様は、私たちの思いや想像を超えて、最善をなして下さいます。

讚美歌 291

祈り 神様、あなたへの信仰を強めて下さい。

イエス様の御名を通してお祈り致します。アーメン。

マーク・ヤング
ワシントン州モクシー